

# 記念講演・研究実践報告

認定 NPO 法人 アレルギー支援ネットワーク

会場:名古屋工業大学 4号館 大ホール

午前の部 9:15 受付開始

9:30~10:40 記念講演 1

座長 和泉秀彦 名古屋学芸大学 管理栄養学部 教授

## 「食物アレルギー 最近の話題」

講師 宇理須 厚雄 氏                      うりすクリニック 名誉院長

食物アレルギーに関する最近の話題の中で下記について解説します。

- 1、園・学校での対応；保護者と園・学校職員・医師の3者間での情報共有の重要性
- 2、完全除去から安全量摂取さらに積極的安全量摂取の試み：食の QOL 向上と耐性増めざした安全量摂取。低アレルゲン化した食品や食品そのものの安全量摂取の意義と課題
- 3、経口免疫療法；より安全な方法を目指す重要性やスムーズに増量できない患者への対応。

休憩 10:40-10:50

10:50~12:00 記念講演 2

座長 和泉秀彦 名古屋学芸大学 管理栄養学部 教授

## 「大人のアレルギーについて

### ～日常生活で知っておきたいアレルギー～

講師 矢上 晶子 氏                      藤田医科大学 ばんだね病院 総合アレルギー科

アレルギーといえば“小児の疾患”と思う方も多いと思いますが、小児期からのアレルギーが続いている方もいれば、成人してからアレルギーを発症する大人の方も少なくありません。また、高齢になってから発症する食物アレルギーの患者さんもいらっしゃいます。日常生活の中にはアレルギーの原因となる物質が多々ある一方で、知っていることで予防できるアレルギーもあります。講演では、大人の方と同時に、いずれは大人になるお子さんにとって、“知っておきたい日常生活に潜むアレルギー”についてお話しします。

13:00～14:30 特別講演

座長 二村昌樹 (独)国立病院機構 名古屋医療センター 小児科医長、アレルギー科医長

### 「食物アレルギーを持つ子どもへの心理的支援」

講師 上原 優子 氏 大阪大学医学部付属病院 総合周産期母子医療センター

食物アレルギー患者は増加傾向にあり、食物アレルギーをもつ乳幼児の有病率は5～10%と推察されている。特に乳幼児期に多い原因食物である、鶏卵、牛乳、小麦は離乳食に頻りに利用される食品であり、「食べないようにする」ばかりでなく、「触れないようにする」ことも必要なため、集団保育の場での対応が必要とされる。また、乳幼児期の精神的発達として、母子の豊かな相互作用が求められるが、食物アレルギーの診断を受け、食物除去の指示がなされると、母親は子どもの誤食の予防と緊急時の対応とに追われて、緊張感に満ちた子育てのスタートとなるため、十分な母子相互作用が得られにくくなると思われる。さらに、食べられるものとそうでないものについて子どもに教えていく必要があり、どのような点に配慮していけばよいのか、またどのような声掛けをしていくのが望ましいのか等について一緒に考えていければと思っています。

休憩 14:30-14:40

14:40～15:10 研究報告

座長 二村昌樹 (独)国立病院機構 名古屋医療センター 小児科医長、アレルギー科医長

#### ●研究報告

「卵加工食品中のアレルゲン溶解性の変化」

名古屋学芸大学 管理栄養学部 管理栄養学科 4年生  
久保田美優、西尾真琴、林歩美、森愛瑛

「食物アレルギー児への食教育」

名古屋学芸大学 管理栄養学部 管理栄養学科 4年生  
水野伽世子、高林沙優季、小野果林

休憩 15:10-15:25

15:25～16:30 食物アレルギーマイスター活動報告・研究実践報告

座長 二村昌樹 (独)国立病院機構 名古屋医療センター 小児科医長、アレルギー科医長

#### ●受講生による研究実践報告 (各10分報告 5分質疑応答)

1. 「保育園給食における、食物アレルギー児対応の変化」

株式会社魚国総本社 管理栄養士  
小川まゆ子

2. 「アレっ子の親との地域での取り組みと課題」

船橋市立医療センター 看護師  
小川真里

#### ●食物アレルギーマイスター活動報告

「離乳食の重要性」

社会福祉法人 信竜会 給食調理員  
田垣内菜実